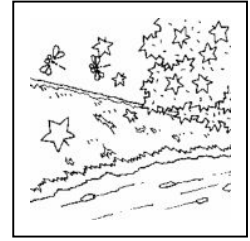


2005年 秋号

# ぷらう 33号



発行：TEACCH プログラム研究会

～ もっと沢山議論をしよう ～

TEACCH 研会長 内山 登紀夫（よこはま発達クリニック）

思い返せば TEACCH に関わるようになってから 15 年くらいたった。その間に自閉症をめぐる状況は大きく変わったし、TEACCH も少しずつ変わってきた。TEACCH を縁にした仲間も随分増えた。自分自身を振り返って、昔は TEACCH も自閉症もよくわかっていなかったと思うし今でもきちんと理解しているかと問われると、はなはだ心許ない。TEACCH は 15 年前とは比べ物にならないくらい日本でも話題にのぼるようになった。もちろん TEACCH がすんなり日本に受け入れられているわけではない。TEACCH に対する批判や誤解も沢山聞こえてくる。今までは誰かが陰で TEACCH 批判をしているといったような噂で聞こえてきたのだが、TEACCH を正面きって批判したり疑問を呈する人たち、きちんと文章にして出版するようになってきた。これはまことに歓迎すべきことだ。例えば最近出版された「自閉症児の教育実践—TEACCH をめぐって（奥住 秀之、東京知的障害児教育研究会著、大月書店）」では教育場面の実践で TEACCH の手法をめぐる議論がされている。著者はどちらかというところ TEACCH に批判的な立場のようだし、議論は正直、噛み合っているようにはみえないが、それでも、このように正面切った議論が誰でも読める形で出版されたということは、TEACCH に関心がある者の一人として素直に喜びたいし、著者に感謝したい。TEACCH のことを TEACCH 部のスタッフから学ぶことも大事だし、TEACCH 研の内部で議論しあうことも大事だ。しかし TEACCH に批判的だったり無関心だったりする専門家や親ともお互いの臨床実践と自閉症研究の成果を踏まえて議論していくことはもっと大切かもしれない。

TEACCH はドグマでも宗教でもなく科学だ。科学である限りお互いに議論することで、理解が深まっていくはずだ。ショプラーがこう言ったから、メジボフがこう言ったから、TEACCH の人がこうしているから正しいという議論をしていないだろうか？それでは宗教になってしまう。ショプラーが何故そう言ったのか？どういう考え方の筋道でそう言ったのかが大事だ。どんなに偉い人の発言でも間違いがないとは言えないし、文脈を考慮しないで「お言葉」を頂くようなことは避けたい。考え方の筋道が自分で納得できなければ、自分なりにもっと深く考えよう。そのほうが納得できないままに権威の模倣をするより良い答えがでるかもしれない。ショプラーたちもそれを望んでいるはずだ。

科学で大切なことは情報をオープンにすることと、わからないことはわからないという謙虚さだろう。もちろんケースのプライバシーには配慮が必要だが、TEACCH 研の議論はできるだけオープンにしていきたい。自閉症は治る障害ではないし、もちろん TEACCH も万能ではない。自分たちの失敗例や支援の方法に苦慮しているケースを、TEACCH に批判的な人も含めて議論することは有益だと思う。TEACCH 研の目的は本家 TEACCH の模倣ではなく、自閉症の人と家族のより良い支援を考えることなのだから。

～ 第 7 回 TEACCH プログラム研究会実践研究大会のご案内 ～  
( 参加者募集について )

空の色、渡る風が快い季節となりました。会員の皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、当研究会では、第 7 回の実践研究大会を福岡支部の皆様のご尽力を頂き、下記のように開催することとなりました。会員の皆様が日ごろの実践の中で気づいた点や疑問点など、互いに持ち寄り、気軽に話し合える場になればと思います。会員の方々の多数のご参加をお待ち致しております。

記

- 1 会期：2006（平成18）年1月28日（土）13：30  
～1月29日（日）12：30
- 2 会場：1月28日（土） 福岡市立中央市民センター（福岡市中央区赤坂2丁目5番8号）  
TEL 092-714-5521 市営地下鉄「赤坂」下車 2番出口徒歩5分  
西鉄バス「赤坂門」バス停下車 徒歩5分  
  
1月29日（日） 西南学院大学（福岡市早良区西新6-2-92）  
市営地下鉄「西新」下車 徒歩5分  
西鉄バス「修猷館前」下車 徒歩5分  
\* 今回、都合により1日目と2日目の会場が異なっており、ご迷惑をおかけしますが、  
よろしく願いいたします。
- 3 主催：TEACCHプログラム研究会
- 4 参加資格および参加定員：TEACCHプログラム研究会会員、申し込み先着150名  
\* 会員外の参加はできません。必ず各支部に入会手続きをしてからお申し込み下さい。
- 5 参加費：6000円 懇親会費(希望者のみ)：6000円(予定)
- 6 参加申し込み方法：参加申し込み書(別紙)と、住所、氏名を記載し80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、下記へ送付して下さい。(内容不備の場合は手続きができませんのでご注意下さい。) 先着順にて受付の上、参加証、会場の地図、参加費入金手続きのご案内を送付いたします。電話、FAX、メール等での申し込みは受け付けられませんのでご了承下さい。  
  
\* 参加申し込み締め切り：11月11日(土) 当日消印有効  
ただし、定員に達した場合はその時点で締め切ります。  
\* 送り先：〒813-0025  
福岡市東区青葉3丁目8-1 東福岡養護学校内  
第7回 実践研究大会事務局(緒方よしみ)
- 7 問い合わせ：実践研究大会事務局 緒方よしみ TEL/FAX 092-736-6555  
E-mail yoshimi@star.odn.ne.jp

## プログラム概要(予定)

所	時刻	プログラム
中央市民センター	1月28日(土)	
	13:00	受付
	13:30	開会式
	13:50	基調講演 I. 「自閉症支援の最前線」 講師 門 眞一郎氏 京都市児童福祉センター副院長、児童精神科医  II. 「TEACCH から学び日本で生かす」未来への提言 講師 佐々木 正美氏 川崎医療福祉大学教授、ノースカロライナ大学精神科臨床教授
	18:00	終了
19:00	交流懇親会 (希望者のみ)	
西南学院大学	1月29日(日)	
	9:00	受付
	9:15	実践報告と意見交換 分科会1: 「支援システムの構築」 ～ 学校・施設・地域での取り組み ～  2: 「高機能自閉症の方への支援を考える」 ～ 現状と課題について ～  3: 「TEACCH はなぜ誤解されるのか PART II」 ～ 誤解をこえて ～
	12:00	TEACCH プログラム研究会年次総会
	12:30	閉会式

\* 録音・録画をご遠慮下さい。後日、大会録（別途実費販売）を発行予定です。

## 平成 18 年度 総会のお知らせ

日時：平成 18 年 1 月 29 日（日）12：00～

会場：西南学院大学

\* 第 7 回実践研究大会 2 日目終了後に同じ会場で行います。

\* 議題

平成 17 年度活動報告、決算

平成 18 年度活動計画、予算

その他

---

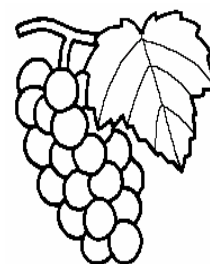
---

### ～ 第 14 回トレーニングセミナー日程のお知らせ ～

2006 年度第 14 回目のセミナーは東京都で開催されます。

日程と開催場所について予告いたします。申込の詳細については「ぷらう春号」（34 号）にてお知らせする予定です。

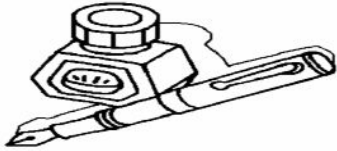
1. 会 期 平成 18 年 8 月 11 日（金）～13 日（日）
2. 場 所 八王子市南大沢文化会館  
住所：八王子市南大沢 2-27 TEL：0426-79-2212  
新宿駅より京王線利用で約 40 分 京王相模原線南大沢駅より徒歩 3 分
3. 申込資格 自閉症児・者の治療、教育、福祉に携わる専門職で TEACCH プログラム研究会会員対象。未加入の方は入会手続き後、お申し込み下さい。入会については最寄りの TEACCH プログラム研究会各支部へお問い合わせ下さい。
4. 受講費 58000 円（昼食費込み。懇親会費別途。宿泊は必要に応じて各自）
5. 定 員 20 名（4 グループ）選考させていただきます。
6. 申込方法 ぷらう春号で申込用紙を配布いたします。必要事項を記入し、申し込み期間内に郵送でお申送ください。FAX は受け付けません。受講の決定者にはメールで通知いたします。（連絡事項はすべてメールでおこないます）
7. 問合せ TEACCH プログラム研究会東京支部（担当：石原・田村朋）  
〒206-0822 東京都稲城市坂浜 1951-5 パサージュいなぎ内  
teacchtokyo@yahoo.co.jp （問合せはメールでお願いします）



# 列島リレー



支部だより（第1回・北海道・佐賀支部）



## 北海道より（北海道支部）

北海道 発達障害者支援センター あおいそら  
井出 尚久

北海道支部は、現在、100名をこえる会員がおり、年間5回の勉強会を行っています。事務局は、「北海道発達障害者支援センターあおいそら」に置かれています。今回は、事務局である、「北海道発達障害者支援センターあおいそら」の活動を紹介させていただきたいと思います。

\*

発達障害者支援センターは、北海道全体が支援エリアになっています。広大な国土面積と大都市集中型の北海道は、14の支庁で構成されていて、事務局の置かれている函館市は、北海道の端に位置しています。

その支援エリアに十分な支援が行き届かない現状がありましたが、今年8月から北海道の単独事業として、北海道の北と東のエリアを担当する地域センターが開設しました。14の支庁のうち、道北地域センターが3つの圏域、道東地域センターが4つの圏域を担当することになります。私たち「あおいそら」は、残りのエリア～道央と道南を中心とした活動を担当することになりました。札幌市においても11月に支援センターが開設を予定していますので、道央の部分が若干カバーされることになります。各地域センターは、まだ動きだして間もないですが、これからできる札幌市のセンターとあわせて都合4つのセンターができあがります。実質上、人員の確保と支援エリアの分担ができた訳です。この事業がスタートして4年目を迎えています。今後の事業展開に向けて活動の幅がもてるようになりました。

センター事業の実際については、「あおいそら」に寄せられているニーズの大部分が直接支援を期待するものですが、支援センターの役割としては、機関との連携に軸をおいた支援者の支援と考えています。そのため、機関コンサルテーションや支援者向けの研修会活動を積極的におこなっております。対象者層は児童期にあたる就学～小学校までの年齢のお子さんにかかわる方からの相談が多いのが現状です。

研修会では、教師や保育士向け研修会の企画、保護者、一般向けの勉強会を実施し、自閉症の理解を繰り返し説明するようにしています。私たちの企画する研修会の他に、依頼を受け講師としてセンタースタッフが支援提供することも多く、親の会や学校、施設などから依頼を受けて行うことがあります。

機関コンサルテーションでは、幼稚園、学校などからの要請に応じて訪問支援を実施しています。特別支援教育への移行を見据えて、コンサルテーションの依頼や校内研修会の要請なども多数寄せられるようになってきています。中でも、高機能群の子どもたちへの支援について相談されることが増えています。学校からの支援要請が増えていることに加え、コンサルテーションの他にも、いろいろな場面で相談を受けることが多くなってきています。

北海道支部の勉強会の中では、コンサルテーションで関わりを持った幼稚園や学校の先生方、施設の職員の方に実践発表していただきながら、その工夫について交流しています。広い北海道という地域性から、勉強会に参加できない会員には、Eメールなどでその成果を還元していくようなこともしております。今後も関係者との連携を密にしていこうと思っています。

## 自尊心の浮き沈みの激しい研修旅行（佐賀支部） ～2005年5月 TEACCHのカンファレンスに参加して～

今年5月に、ノースカロライナ、チャペルヒルで行われた、INTERNATIONAL INSERVICE（世界各国でTEACCHモデルを実践している方の研修プログラム）と、TEACCH メイカンファレンス（最先端の自閉症研究の発表）及びショプラー教授 40 周年祝賀会に参加させていただきました。

### ◎ 渡米→入国：いきなり自尊心が砕け散る

福岡→成田→シカゴ→ノースカロライナという飛行機嫌いの私には恐怖の旅のはじまり。成田→シカゴは最悪で揺れるどころではなく縦横揺れまくって、映画の「Shall we Dance?」を見ながら私もダンスするはめに……

シカゴについて入国手続きに、英語がまったく駄目な私、まあ「sightseeing」って言えばどうにかなると思ったが、入国の際に何を言われているかがさっぱりわからない。そこで「sightseeing」と……え、なんで怒ってるの？お姉さん？私はお姉さんの様子をキョロキョロ見て（指示待ち状態）、そこでお姉さんが機械をボールペンでトントンと（ジェスチャーだね）、わかった指紋だな？右手を出そうとするとまた怒ってる？そして私の左手を指して（ジェスチャー）そうか左手だ……。これで終わりとおもったらカメラを指してジェスチャー。覗くのね……。もう私の自尊心は砕け散ってしまったのでした。相手の気持ちがわからない、相手に気持ちが通じないとは、こんなに自尊心が砕け散るものなのかを痛感。自閉症の方の支援でも同じ、本人の特性にあわない支援（指導）が、こんなにも指示待ちをつくり、自尊心を打砕いているのか……。

### ◎ TEACCH研究会の先生方にあって気持ちが高まる！

入国して、次の日からINTERNATIONAL INSERVICEといわれるTEACCHからの最新情報、各国の実践報告を聴講しました。各国の実践では日本に来ていただいたデビッド=プリース氏の発表もあり、去年のセミナーを踏まえてさらに深まり、そして久しぶりにデビッド氏に会えて嬉しかった。INTERNATIONAL INSERVICE で出てきた構造化された支援の様々なアイデア、ジェネラリストモデル、TEACCHモデルを見て感じたのは、日本でもたくさんのTEACCH研究会を中心とする仲間が同じように良い実践をされているということ。自分の小さな実践にも仲間の実践に対しても自信がもつことができました。

INTERNATIONAL INSERVICE からメイカンファレンスにかけて佐々木先生やその他のTEACCH研究会の先生方と一緒に聴講させていただき光栄でした。また昨年、岡山のTEACCHトレーニングセミナーでお世話になったティシャさんやそれにデビッド氏とも再会し、こんなにたくさんの先輩方、仲間との出会いと繋がりがあがるTEACCHを学べて本当によかったと感じました。

メイカンファレンスは、最新の研究内容が多く紹介され、自閉症の方のアテンションや思考の特性については興味深く、このような研究を基盤として世界の自閉症の方の支援についての視点が整理されていることに感動しました。

ショプラー教授 40 周年祝賀会では、あいにく雨でしたが、初めてアメリカのパーティーを経験させていただきました。TEACCHができた当時の子どもたちが成人として参加したり、たくさんのこれまで関わったスタッフの方が参加したりと、TEACCHモデルの歴史、世界的な広がりを感じました。

### ★USA 街で見かけた構造化

写真は、米国の駅で見つけたホームの構造化、右は日本のもの、日本のものは線で提示されていますが、あちらでは面で提示してあって分かりやすかった！（文責：水野敦之）



